大阪公立大学 Osaka Metropolitan University 学術情報リポジトリ

IRIS活動報告集IX

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2020-03-12 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10466/00016748

アイリス

IRIS活動報告集IX

大阪府立大学 女性研究者支援センター 2019年度

大阪府立大学 理系女子大学院生チーム
IRIS(アイリス)

1年間の活動

4月	リケジョ相談コーナー
5月	任命式・懇親会
6月	企画実施講習会 IRIS 交流会
7月	IRIS 交流会 日経ウーマノミクスフォーラムシンポジウム
8月	めざせ理系女子コーナー　先輩と話そう IRIS サイエンス・キャンパス（吹田市） SSH 生徒研究発表会ブース補助 [ノートルダム清心学園] 清心女子高等学校科学実験キャリア教育プログラム [未来の博士育成ラボ・関西科学塾] 堺市中学校理科スキルアップ研修でのミニ講座 IRIS サイエンス・キャンパス（茨木市） IRIS サイエンス・キャンパス（富田林市）
9月	IRIS サイエンス・キャンパス（羽曳野市） [関西科学塾] 堺市学校理科展覧会科学実験ブース
10月	IRIS 交流会 IRIS サイエンス・キャンパス（高石市） [関西科学塾]C 日程開会式発表＆実験・実習講座 [ノートルダム清心学園] 「集まれ！理系女子─全国大会─」女子生徒による科学研究発表交流会 IRIS サイエンス・キャンパス（岸和田市）
11月	IRIS 企業研修 ホームカミングデーウェルカムパーティ活動紹介 和歌山信愛高校交流会 IRIS サイエンス・キャンパス（和泉市） IRIS 交流会 IRIS サイエンス・キャンパス（泉佐野市）
12月	[未来の博士育成ラボ]TA 企画講演 [ノートルダム清心学園] 「集まれ！理系女子─関西大会─」女子生徒による科学研究発表会 IRIS 交流会 IRIS サイエンス・キャンパス（大阪市）
1月	IRIS サイエンス・キャンパス（堺市）
2月	IRIS 活動報告集製作
3月	IRIS 活動報告会・イベント実施申込説明会

IRIS とは

大阪府立大学理系女子大学院生チーム IRIS（アイリス）は、次世代の女性研究者を育成することを目的として、工学研究科、生命環境科学研究科、理学系研究科、人間社会システム科学研究科に所属する女子大学院生によって活動しています。年度毎に学内で募集され、学長から任命を受け、地域の身近な理系女性のロールモデルとして活躍しています。

IRISが学ぶ　研究者やリーダーとしての素養を IRIS メンバーが身に付けることを目的として、サイエンスコミュニケーションを学んだり、ロールモデルカフェや企業研修をとおして、多様なキャリアパスやワーク・ライフ・バランスを考えます。

子ども達に伝える　理系の女性研究者のロールモデルとして、サイエンスイベントを実施するなど、小中高校生に科学の魅力を伝えています。

他事業と連携する　本学が関わっている他のサイエンスコミュニケーション関連事業のスタッフとして活動しています。

IRIS 第 9 期生名簿

No	氏名	学域・研究科	専攻	分野	学年
1	清水 歩実	工　学	機械系	機械工学	M2
2	柳澤 真由				M1
3	坂倉 央子		航空宇宙海洋系	航空宇宙工学	M1
4	坂野 文香				M1
5	沖見 優衣			海洋システム工学	M1
6	前川 真奈海				M2
7	岡田 博子		電子・数物系	電子物理工学	M1
8	新堂 由依		電気・情報系	電気情報システム工学	M2
9	津屋 朋花				D1
10	森田 喜恵				M1
11	小川 恭子			知能情報工学	M2
12	川岸 樹奈				M2
13	木田 景子				M2
14	井上 文音		物質・化学系	応用化学	M2
15	乙山 美紗恵				D3
16	矢野 綾子				M2
17	河相 優子				M1
18	小林 奈緒				M1
19	玉木 万美子				M2
20	辻本 絢子	工　学	物質・化学系	応用化学	M1
21	西尾 実咲				M1
22	森脇 ちひろ				M2
23	柳 美早紀				M2
24	吉田 春香				M2
25	中西 美晴			マテリアル工学	M2
26	飯高　涼	生命環境科学域	獣医学類	毒性学教室	B6
27	勝沼 理沙	生命環境科学	応用生命科学	応用生命科学	M1
28	丸井 汐里				M1
29	佐々木 里那				M1
30	野口 真里				M2
31	山口 真由				M2
32	平田 梨佳子				D1
33	松本 真季				M1
34	植嶋 亜衣	理学系	生物科学	―	M1
35	大西 穂波			―	M1
36	平野 まみ			―	M2
37	陳　璞	人間社会システム科学	現代システム科学	知識情報システム学	M1
38	平尾 菜有			環境システム学	M1

D：博士後期課程　M：博士前期課程　B：学士課程

IRIS-OG の主な就職先（五十音順）

＜大学・研究所・公務員など＞

大阪府庁、大阪府立大学、大阪府立環境農林水産総合研究所、京都大学 iPS 細胞研究所、国立研究開発法人科学技術振興機構、産業技術総合研究所、中学校教員（理科）など

＜民間企業＞

大関株式会社、大塚製薬株式会社、株式会社 NTT ドコモ、株式会社商船三井、株式会社豊田中央研究所、株式会社ノエビア、株式会社村田製作所、関西電力株式会社、キヤノン株式会社、グリコ栄養食品株式会社、コクヨ株式会社、小林製薬株式会社、サンスター株式会社、新日鐵住金株式会社、ソニー株式会社、ダイキン工業株式会社、タカラスタンダード株式会社、トヨタ自動車株式会社、日産自動車株式会社、日本アイ・ビー・エム株式会社、日本航空株式会社、本田技研工業株式会社、マルホ株式会社、三菱電機株式会社、ヤフー株式会社 など

子ども達に伝える　サイエンス・キャンパス

理系で活躍している女子大学院生の存在を知ってもらい、科学の楽しさを伝えるために、IRIS サイエンス・キャンパスを開催しました。

吹田市

つかめる水！ふしぎな水のボールを作ろう！

日にち	2019年8月4日（日）
会場	吹田市立男女共同参画センター
主催	吹田市立男女共同参画センター
共催	大阪府立大学女性研究者支援センター
参加者数	小学生15名、保護者13名
IRIS	（工）木田、（工）吉田、（生）勝沼、（生）山口

茨木市

水飲み鳥を作ろう

日にち	2019年8月18日（日）
会場	茨木市立男女共生センターローズWAM
主催	茨木市立男女共生センターローズWAM
共催	大阪府立大学女性研究者支援センター
参加者数	小学生16名
IRIS	（工）前川、（工）乙山、（生）佐々木

富田林市

手作りスライムで大実験！！

日にち	2019年8月31日（土）
会場	富田林市きらめき創造館（TOPIC）
主催	富田林市人権政策課男女共同参画係
共催	大阪府立大学女性研究者支援センター
参加者数	小学生18名、保護者15名
IRIS	（工）井上、（工）矢野、（工）辻本

羽曳野市

はずむ！ノリノリサイエンス！せんたくのりからスーパーボールを作ろう！

日にち	2019年9月7日（土）
会場	陵南の森公民館
主催	羽曳野市市民人権部人権推進課
共催	大阪府立大学女性研究者支援センター
参加者数	小学生7名、保護者7名
IRIS	（工）中西、（生）野口、（生）平田

高石市

天気のひみつ ～雲を作ろう！、竜巻パワーがとまらない！！、食塩水で虹を作ろう～

日にち	2019年10月5日（土）
会場	高石市中央公民館
主催	高石市総務部人権推進課
共催	大阪府立大学女性研究者支援センター
参加者数	小学生12名、保護者12名
IRIS	（工）坂野、（工）河相、（工）玉木

岸和田市

パパと一緒に科学で遊ぼう！～シャボン玉のいろいろな姿を見てみよう～

日にち	2019年10月26日（土）
会場	岸和田市立男女共同参画センター
主催	岸和田市立男女共同参画センター
共催	大阪府立大学女性研究者支援センター
参加者数	小学生6名、保護者6名
IRIS	（工）沖見、（工）津屋、（生）野口

和泉市

パパと一緒に科学実験！！お菓子の色の正体は？

日にち	2019年11月17日（日）
会場	和泉シティプラザ
主催	モアいずみ（和泉市男女共同参画センター）
共催	大阪府立大学女性研究者支援センター
参加者数	小学生18名、保護者17名
IRIS	（工）柳、（生）松本、（生）丸井

泉佐野市

手を触れずにLEDライトを光らせよう！？

日にち	2019年11月30日（土）
会場	レイクアルスタープラザ・カワサキ生涯学習センター
主催	いずみさの女性センター 泉佐野市立南部市民交流センター青少年センター
共催	大阪府立大学女性研究者支援センター
参加者数	小学生18名、保護者15名
IRIS	（工）前川、（工）森田、（工）西尾

大阪市

グラスの中に雪を降らせてみよう

日にち	2019年12月22日（日）
会場	ドーンセンター
主催	ドーン運営共同体（ドーンセンター指定管理者）
共催	大阪府立大学女性研究者支援センター
参加者数	小学生10名、中学生6名
IRIS	（工）新堂、（理）植嶋、（理）大西

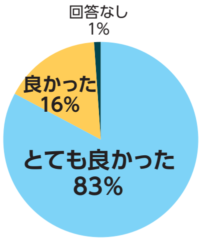
堺で科学　サカイエンス2020

液体を「積む！？」不思議なカラフルタワーをつくろう

日にち	2020年1月26日（日）
会場	堺市教育文化センター（ソフィア・堺）
主催	堺市教育委員会
後援	大阪府立大学、堺科学教育振興会他
参加者数	117名
IRIS	（工）清水、（工）岡田、（工）小林、（工）吉田

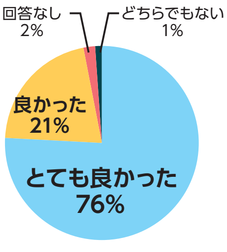
サイエンス・キャンパスアンケート結果

小学生・中学生



- 今日は理科のことについてたくさんしれました。今までよりも理科が好きになった気がします。
- 正直いうと、りけいの大学にはいろうかなぁと思っています。友達といっしょに入ったりできたらいいなぁ。
- NH_3 についておしえてもらえたのでみんなにもいいたいです。
- おかしの色の正体がわかって楽しかったです。自分で実験を体験できたのが良かったです。
- 理系の授業が少しでもすきになれた。
- すごく楽しかった。むずかしいところもあったけど、できたときのたっせいかんがうれしかった。
- 天気や温度によってりょうや形が変わるのが面白いなと思いました。6～12時間後の天気が分かるのがふしぎだなと思いました。毎日見て観察したいと思いました。
- みぢかにあるものでこんな物ができるなんてびっくりしました。
- とても楽しかった。ストームグラスの天気予報があたるか見るのが楽しみ。お姉さんが研究している腸内細きんの話しをもっと聞きたいなぁと思った。

保護者



- 大学生の方から若いエネルギーを頂けました。実験も何十年ぶりで楽しめました。ありがとうございました。
- 普段から天気のことは興味がある子なので、楽しめたと思います。実験を真剣にしている姿は親からみても頼もしかったです。
- 子どもと楽しく実験出来ました。お姉さんたちが、ご自身の日々の実験や目標を話してる姿がとても素敵でした♡夢を持つ子になって欲しいです。
- 子どもたちが笑顔で実験に取り組み、新鮮な驚きとワクワク感を得ることができてよかったです。
- 小学校の自由研究のネタにすると言って、娘はいっしょうけんめいノートを取っていました。みなさんていねいに教えてくださってとても好感が持てました。
- 大人にもとてもわかりやすくなるほど一と勉強になりました。小１には難しくうまくいかない実験もありましたが、うまくいかないこともよい経験になったと思います。大学院生の方、これからもますますがんばってください。
- 子どもに興味を持たせるようにいろいろ工夫してもらって楽しかったです。

（工）工学研究科、（生）生命環境科学研究科・生命環境科学域、（理）理学系研究科、（人）人間社会システム科学研究科

サイエンス・キャンパスの舞台裏

IRIS が実施している科学実験教室「サイエンス・キャンパス」について、IRIS が本番に向けてどのようなことに悩み、企画をどう組み立て、準備しているのかをご紹介します。高石市「天気のひみつ～雲を作ろう他～」から河相 優子さん、和泉市「お菓子の色の正体は？」から柳 美早紀さんにお話を伺いました。

（インタビュー：森田 喜恵、吉田 春香）

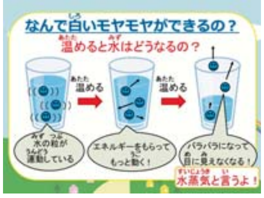
子で実験
雲を作ろう
阪府立大学IRIS（アイリス）
科学の楽しさを伝える理系女子大学院生チーム

高石市「天気のひみつ～雲を作ろう他～」

実験内容・・・

「天気のひみつ」を知るために、３つの実験を行いました。①「雲を作ろう！」はペットボトルの中に雲を作る実験、②「竜巻パワーがとまらない！！」は発泡入浴剤を使用し、竜巻を起こす実験、③「食塩水で虹を作ろう」は食塩水の濃度の差を利用して虹色の層を作る実験です。

天気のひみつ
IRISサイエンス・キャンパス
2019年10月5日
高石市総務部人権推進課
大阪府立大学理系女子大学院生チーム アイリス



なんで白いモヤモヤができるの？
温めると水はどうなるの？

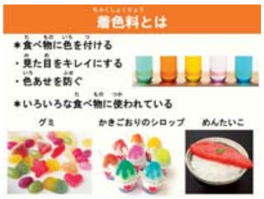
温める
温める
水の粒が運動している
エネルギーをもらってもっと動く！
バラバラになって目に見えなくなる！
水蒸気と言うよ！

和泉市「お菓子の色の正体は？」

実験内容・・・

身近なお菓子を通して着色料について学ぶ実験です。前半ではお菓子から着色料を取り出して毛糸を染め、天然着色料や合成着色料の違いを学びました。後半では、前半で学んだ知識を使って、未知の着色料の種類を当てるクイズを行いました。

パパと一緒に科学実験！！
お菓子の色の正体は？
2019年11月17日（日）
モアいずみ（和泉市男女共同参画センター）
大阪府立大学 理系女子大学院生チーム IRIS



着色料とは
＊食べ物に色を付ける
・見た目をキレイにする
・色あせを防ぐ
＊いろいろな食べ物に使われている

テーマ決め

当初、行う実験は①「雲を作ろう！」のみの予定でした。しかし、この実験は短時間で結果が出ることから、いくつか実験を追加することになりました。実験を考える際に雲をテーマとし、ドーナツ雲、彩雲、CD の分光器の実験など様々な案が出ましたが、具体的にどの実験をするのか、方向性の決定は難航しました。

身近な科学にまつわる実験をしたいと考え、案を絞りました。お菓子はみんな良く知っていて、これから先も触れ続ける最適な題材でした。さらに家での再現が簡単だったこと、色がキレイで楽しく学べること、本企画の幅広い対象年齢に対応した難易度だったことから、この実験を推薦しました。また保護者の方も参加される企画だったので、親子で添加物について考える機会になればという狙いもありました。

実験リハーサル

１回目のリハーサルでは、テーマ決めで出た実験案を実施しました。①「雲を作ろう！」の実験は成功しましたが、それ以外の実験は全て失敗。ドーナツ雲に至っては、ドライアイス使用不可という実施団体の申し出から、実験自体が却下となりました。そのような状況の中、IRIS で再度実験案を練り直すことになりました。テーマを「天気」に広げて考えた結果、挙がった実験案が②「竜巻パワーがとまらない！！」、③「食塩水で虹を作ろう」です。２回目のリハーサルで実験した際には全て成功し、３つの実験を行うことが確定しました。

リハーサルでは、一度で実験結果を得ることができました。しかし、子どもたちが簡単にかつ飽きずに実験できる流れを作り上げるために、リハーサルを重ねました（結果的に 10時間以上になりました）。短時間の条件や、湯せんしなくても成功することを確かめ、実験にかかる時間と手間を省きました。また、子供たちの目からみても結果がわかるように、色が変化しやすいお菓子に絞りました。実験をシンプルにできたからこそ、伝えたいポイントをより明確に伝えられたと思います。

構成決め

３つの実験を行うにあたり、IRIS が一人１つの実験を担当することになりました。３つの実験が独立しているため、実験方法や天気を理解するプロセスを考慮して実験の順番を決定しました。もう１点重要なポイントは、材料調達です。実験を３種類行うため、材料予算がオーバーしてしまったのです。そのため、どの実験の、どの材料を削るかの検討には苦労しました。

最初は、本番の前半で行った、「色を抽出して毛糸を染め、着色料の種類について知る」部分だけを行う予定でした。これにはチョコレートを使用したのですが、メンバーの間で他のお菓子でも実験したいという意見が出ました。同じ操作の繰り返しでは退屈ではないかと考え悩んでいましたが、クイズにして未知の着色料を当ててもらうという案が出ました。前半で身につけた知識を活用することもでき、より理解が深められると、二部構成にすることを決めました。

資料作り

IRIS がそれぞれ受け持つ実験の資料を作りました。工夫が必要となった点は、導入部分、実験のつなぎです。３つ実験を行うことをあらかじめ伝えておくほうがいいだろうと、最初に導入部分を作りました。また、実験がそれぞれ独立しているため、各実験をどのようにつなげるかということも考慮しました。その上で、普段小学生向けの資料を作る機会がないことから、ちゃんと小学生が理解できる資料になっているかの確認が必要であり、最終リハーサル後に何度も修正しました。

実験の仕組み説明は、どこまで詳しく説明するかで苦労しました。小１から小６と参加年齢が幅広かったことから、化学式など難しすぎる説明は省きました。代わりに着色料が何からできているのかについて、子ども達が知っているものを例に挙げ説明しました。また「着色料」以外の点は簡単にとどめるなど、伝えたいポイントをしっかり意識して説明を考えました。

本番

サイエンス･キャンパス本番、全ての実験が成功し、時間もスケジュール内に収めることができました。子どもたちも想像以上に喜んでくれました。当日を迎えるまでに、実験案の選定や材料の決定など、様々な苦労がありましたが、その努力がきっと本番の成功につながったのだと思います。

実験操作をシンプルにしたものの、使う材料や手順において未だ複雑な箇所があり、参加者が混乱してしまう場面がありましたが、IRIS がうまくフォローすることができました。リハーサルを何度も重ね、自分たちがしっかり実験を把握出来ていたこともあり、想定していたタイムテーブル通りに進行することができました。
子どもたちがわくわくしながら実験に取り組んでくれている様子が印象的でした。

伝える

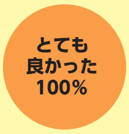
IRIS は理系を選択したロールモデルとして、小中高・受験生が抱える進路選択に関する悩みや不安を解消する機会を設けています。様々な活動シーンにおいてメンバーの研究内容や学生生活、進路選択の経験を伝えることで、小中高・受験生の理工系進学のモチベーションを高めてもらうことを目的としています。

大阪府立大学ネイチャービュー　府大花（さくら）まつり　「リケジョ相談コーナー」

桜咲くキャンパス内を散策する地域向けイベント「府大花（さくら）まつり」で、高校生･受験生向けコーナーを開催し、IRIS が、女子中高生の質問にグループトークで答えました。

日　　程	2019年4月7日(日)
会　　場	大阪府立大学中百舌鳥キャンパス 生協食堂エリア
主　　催	大阪府立大学ネイチャービュー実行委員会
参加者数	33 名
I R I S	(工)前川、(工)河相、(工)小林

アンケート結果



＜参加者の声＞

- とても明るい感じがして楽しそうでした！工学部により一層興味がもてました！
- 大学院まで行くと研究いっぱいできて楽しそうだなと思った。
- 理系女子大生の学部や大学で学んでいることを聞き、楽しみながら取り組んでいることを知りました。イメージがとても良く感じました。

進路や理系に対する疑問を聞くため、たくさんの生徒さんが立ち寄ってくれました。特に受験勉強に関する質問が多かったように感じます。大学生活、研究生活の楽しさを伝えるうちに、最初は悩みに対し不安そうな顔をしていた生徒さんたちが笑顔になり「来年お会いできるように頑張ります！」と言ってもらったときはとても嬉しかったです。私も彼女たちに少なからず良い影響を与える先輩になれたのかなと思いつつ、彼女たちに負けないよう今後も楽しみながら研究に励みたいと思いました。(工)小林

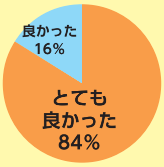
オープンキャンパス 2019　「めざせ！理系女子コーナー　先輩と話そう」

理系への進路を考えている女子中高校生、受験生とその保護者を対象に開催しました。女子中高校生、受験生は IRIS と少人数でのグループトークで、保護者には、運営委員の先生方から、大学生活の様子や研究の内容などについてお話し、質問に答えました。

日　　程	2019年8月2日(金)･3日(土)
会　　場	大阪府立大学中百舌鳥キャンパス　C5 棟 図書館ロビー
主　　催	大阪府立大学女性研究者支援センター
参加者数	110 名（中高受験生 82 名、保護者 28 名）
I R I S	(工)清水、坂倉、前川、岡田、新堂、森田、小川、井上、乙山、小林、玉木、辻本、西尾、柳、中西、(生)飯高、勝沼、丸井、野口、平田、(理)植嶋、平野、(人)平尾

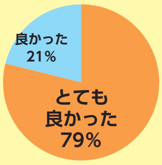
アンケート結果

生徒等



- 工学域が男子ばかりのイメージだったけど、意外と女子もいることを知れた。研究室に対して暗いイメージだったけど、楽しそうだと思った。
- 今までは難しいことをしているというイメージしかなかったが、生活に役立つ身近なことをしていて楽しそうだと思った。
- 理系でも幅広い分野について学べると感じました。
- 男子が多そうなイメージが変わりました。大学生活が楽しそうだったので、モチベーションアップして頑張ります。
- お話を伺ったり、ポスターなどを読んで、苦手より好きを優先した方がいいなと自信がつきました。
- 具体的に色んな話しが着かえたので、視野が広がり理系を選択してよかったと思った。

保護者



- とてもイキイキと楽しそうで夢が持てました。
- 親しみやすくて良い機会でした。
- 具体的な授業内容を聞いて、身近になりました。
- 大学院まで進みたいと娘から聞かされていましたが、就職の事がちょっと気になっていました。今日、いろいろと聞かせていただいて不安が解消されました。受験勉強をしっかりサポートしていきたいです。

日経ウーマノミクスフォーラムシンポジウム　「Be Ambitious!　夢に向かって決意の瞬間」

7.17
Be Ambitious!
夢に向かって 決意の瞬間

メイン会場にて、高校生座談会「You は何しに大学へ？」を担当し、ミニセミナーで、学生生活や理系の魅力、研究の面白さについて講演しました。また、ブース・パネル展示では、大阪府立大学の入試情報や女性研究者の取り組みなどの紹介を行いました。

日　　程	2019年7月17日(水)
会　　場	ハービス OSAKA　B2F ハービスホール
主　　催	日経ウーマノミクス・プロジェクト 実行委員会（日本経済新聞社）
I R I S	(工)清水、柳澤、川岸、小川、森田、玉木、森脇、(生)飯高、(理)植嶋、大西、平野、(人)平尾

ミニセミナーでは、私たち自身のこれまでの進路選択や、大学院での研究・生活についてお話ししました。理系女子の身近な先輩として、理系の魅力や自分で選択する大切さを高校生に伝えることができたと思います。また私にとってこのセミナーは、自身の経験について人前で話す初めての機会であり非常に良い経験になりました。(工)玉木

学ぶ

IRIS 自身のキャリアを考えるセミナーに参加したり、サイエンスコミュニケーションを学んでスキルアップしていきます。

企業研修 in 三洋化成工業株式会社

三洋化成工業株式会社の女性活躍・ダイバーシティ推進の取組や研究所概要について説明を受けた後、研究所を見学しました。また女性社員による講演の後、参加者を交えて、女性技術者とグループトークを行いました。

日　　程	2019年11月1日(金)
会　　場	三洋化成工業株式会社本社研究所
参加者数	17名（うち IRIS 7名）
I R I S	(工)小林、(工)西尾、(工)中西、(生)丸井、(生)佐々木、(生)平田、(人)陳

企画実施講習会

サイエンス・キャンパスを実施する上で、より実践的かつ具体的な手法とフローを習得するために講習会を実施しました。サイエンスコミュニケーションの基礎や、実施フローチャート、事例説明を行った後、実際に実験案を選んで 120 分の企画を立てるグループワークを行いました。

日　　程	2019年6月13日(木)、14日(金)
会　　場	大阪府立大学中百舌鳥キャンパス A11 棟 323 会議室、 B4 棟東 K102 講義室
参加者数	35 名
講　　師	中野 恭子(女性研究者支援センター)

活動報告会

2018 年度開催の様子

IRIS9 期生が 1 年間活躍した内容の報告と、2020 年度に IRIS へ講師依頼を希望する団体を対象とした実施申込説明会を開催します。

日　　程	2020年3月16日(月) 13:00 ～ 15:00
会　　場	大阪府立大学中百舌鳥キャンパス C1 棟　学術交流館　多目的ホール
司　　会	(工)乙山
発　　表	(工)岡田、(工)森田、(工)乙山、(生)平田

(工) 工学研究科、(生) 生命環境科学研究科・生命環境科学域、(理) 理学系研究科、(人) 人間社会システム科学研究科

TOPICS

高校生座談会 Youは何しに大学へ？

日経ウーマノミクスプロジェクト

高校生座談会の概要

日程：2019年7月17日(水)
会場：ハービスOSAKA　B2F　ハービスホール
参加者数：17校300名
ファシリテーター：大阪府立大学 理系女子大学院生チームIRIS12名

ファシリテーターからの話題提供に対して会場全体の高校生で議論。壇上には代表生徒9名が登壇、フロアの高校生を交えて「大学受験とは何か」「入学後にすべきこと」などについて活発な議論を行いました。

当日までの準備

3月上旬	初回打ち合わせ：日経担当者様より企画趣意・概要の説明
4月上旬	座談会の進行案作成を担当するIRIS基幹メンバー4人による初回打ち合わせ 「あれもいいね！」「これもいいね！」という手探りながらの冒険心が大きく、最初からいろいろな案が飛び出しました。
5月中旬	座談会の形式を 「前半：講演形式」 「後半：グループディスカッション」に決定
5月下旬	座談会をサポートするIRISメンバーを募集
6月下旬	進行案を決定 4月上旬の打ち合わせから十数回の打ち合わせをし、高校生が議論をするうえで本当に必要な内容はどのようなことか、タイムスケジュールが大丈夫かなどを踏まえました。ここから司会原稿、スライド作成など各自分担を決め、準備が加速！
7月上旬	座談会をサポートするIRISメンバーへの説明会を開催 当日のリハーサルを入念に行い、最終調整
座談会本番	前半：**「You は今？」** 大学・学部の決め方、進路の悩みなど大学に入る前に思っていることを中心に討論 後半：**「You は将来？」** 30人程度のグループに分かれ、将来やりたいこと、興味についてグループディスカッション

グッズなどの活用

議論を活発なものにするしかけとして、**①うちわ、②Sli.do、③「You は何しに大学へ」用紙、④グラフィックレコーディング**を使用しました。

①うちわ

主に前半で会場全体の意見をA、Bの質問形式で聞くときに使用しました。どの意見が多いのか会場全体で共有することができ、皆で議論をしているという意識につなげることができる材料の1つになったと思います。

②Sli.do

会場にいる一人一人が意見を匿名で投稿できるWeb上のサービスです。これを用いることで会場では声に出して意見することが難しくても、会場の人たちに自分の意見を届けることができるため、参加者の生の意見を引き出すことができました。

③「You は何しに大学へ」用紙

座談会開始前、終了後の2回、「You は何しに大学へ」という質問に対する回答を記載してもらいました。高校生自身が座談会前後でどのように考えが変わったか確認できるツールとなりました。

④グラフィックレコーディング

議論や対話などを絵や図などのグラフィックに可視化して記録していくファシリテーションの手法で、当日高校生から出た意見や質問、隠れた問題点などを絵のついた議事録として記録し、会場に張り出して全員で共有しました。

高校生の変化（You は何しに大学へ　の回答）

座談会開始前	座談会終了後
夢・目標を叶えるため。資格を取得するため。	今自分がしたいことの研究内容に興味を持ち深く学ぶ。
親から大学進学はあたり前と言われているため。	本当にやりたいことを見つけ、それに沿って決めようと思う。
親が行けと言うからとりあえず。	やりたいことを決めて、それが叶う大学へ行きたい。
サークルに入って色々な人と交流したい。	夢に近づくきっかけ、中高では出来ないことにチャレンジしたい。
広い教養、自分の就きたい職業で必要な知識・技術を習得する。	出会いを大切に様々な情報から自分の道を決めたい。
就職のため。	自分のやりたいことを見つけて叶えるため。
履歴書を書く時、高卒より大卒の方が良いから。	好きな事でないと長続きしない。自分探しの大学生活を送りたい。
一般的に進学した方が良いと思うから。	専門分野を学び留学など通じて視野を広げたい。
就職のため。興味のあることを深く学ぶため。	興味を追求する。仕事にしたいと思うくらい好きなことを見つける。
なりたい職業に就くため。	先輩メッセージで「夢の変化」も良いと知り、今からでも大丈夫と思えた。

IRIS の声

●グループディスカッションを通して

半数以上の高校生たちは将来何がしたいかが決まっていないなかで、自分たちの大学での経験を生かしてお話させていただきました。高校生からはよりリアルなアドバイスが聞けて良かったとの声をいただき、嬉しかったです。IRISは色々な分野の理系学生が集まっているため、高校生一人一人がもつ興味や悩みに応じてアドバイスができ、視野を広げることに役立てたのではないかと思い、IRISとして活動するやりがいを感じました。

（柳澤 真由）

●司会を通して

300人という参加者が受け身になりがちな規模感で、前で堂々と自分の悩みや考えを話してくれた高校生9人やSli.do、グラフィックレコーディングのおかげで、全員が前を向き目を輝かせながら議論に参加してくれたことがすごく嬉しく、とても印象的でした。

（川岸 樹奈）

●事前準備を通して

ビッグプロジェクトだったため、事前の準備・打ち合わせはたくさんあり、また自分たちの意見も積極的に取り入れてもらうこともでき、少し大変だけど大きなやりがいを感じることができました。準備したグッズやSli.doなどを高校生が使用し、座談会に積極的に参加してくれた様子を見たときは、とても嬉しかったです。

（森田 喜恵）

●IRIS として企画して

企業の方主催のイベント企画は初めてで、責任感と緊張感を持って取り組みました。他のIRISイベントとの違いは、たくさんの方との連携が必要だったことです。日経さんとの話し合いでは、アイデアの実現に向けて必要な視点を学び、お手伝い頂く学生の方々に企画を伝える時には、自分たちの考えを共有することの難しさを感じました。このイベントを通して、大きなプロジェクトを進める難しさと達成感の両方を味わうことができました。

（森脇 ちひろ）

他事業と連携する

IRISのメンバーは、大阪府立大学が関わっている、他のサイエンスコミュニケーション関連事業へも主にティーチングアシスタント（TA）として参加しています。

和歌山信愛高等学校生徒との交流会

和歌山信愛高等学校1、2年生が本学に来校し、キャンパス内見学と松永教授による数学の体験授業を行った後、IRISに、進路や学生生活、研究内容や受験勉強のコツなどをグループトークで聞いたり、研究室を見学する交流会を開催しました。

日時	2019年11月7日(木)
会場	大阪府立大学中百舌鳥キャンパス A12棟サイエンスホール、A14棟
来場者	48名
主催	和歌山信愛高等学校、大阪府立大学理学系研究科松永秀章教授
IRIS	(工)岡田、(工)玉木、(工)吉田

ホームカミングデーウェルカムパーティ活動紹介

第10回ホームカミングデー2019が開催され、IRISが活動紹介を兼ねてブース展示を行いました。

日時	2019年11月3日(日)
会場	大阪府立大学中百舌鳥キャンパス 体育館特設会場
来場者	280名
主催	大阪府立大学校友会
IRIS	(工)岡田

スーパーサイエンスハイスクール*(SSH)生徒研究発表会ブース対応

SSH生徒研究発表会における本学ブース出展にて、IRISが高校生の質問に答えました。

日時	2019年8月6日(火)、7日(水)
会場	神戸国際会議場1号館
来場者	4,500名
ブース主催	大阪府立大学広報課
IRIS	(工)清水

＊高等学校及び中高一貫教育校における先進的な科学技術、理科・数学教育を通して、生徒の科学的能力、技能、科学的思考力、判断力、表現力を培い、将来国際的に活躍し得る科学技術人材等の育成を図ることとして、文部科学省が指定。

「未来の博士」育成ラボ

「未来の博士」育成ラボは2012年度から通算4年間JST（国立研究開発法人科学技術振興機構）「次世代科学者育成プログラム」の採択実績を有する科学教育事業として今年度で8年目を迎えました。堺市教育委員会と連携し、理数系に関心の高い堺市内の中学生を対象に本学理系教員の企画・指導による高度で多様な科学教育プログラムを提供することで、次世代の科学分野を担う人材の育成に取り組んでいます。

連携先	大阪府立大学21世紀科学研究センター「未来の博士育成ラボラトリー」
IRIS	(工)坂野、(工)森田、(工)小林、 (工)吉田、(理)平野

TA企画（講演）

日時	2019年12月7日(土)
会場	大阪府立大学中百舌鳥キャンパスB3棟
参加者数	34名
主催	大阪府立大学21世紀科学研究センター「未来の博士育成ラボラトリー」
スタッフ	TA2名　内IRIS：（工）玉木

女子中高生のための関西科学塾

関西科学塾は2006年度から12年間JST(国立研究開発法人科学技術振興機構)の「女子中高生の理系進路選択支援」プログラム採択を受けて継続実施してきました。2018年度より、活動の理念に共感いただける企業等から資金提供を受け、京都大学、大阪大学、神戸大学、奈良女子大学、大阪府立大学、大阪市立大学の6大学を正会員とする「一般社団法人関西科学塾コンソーシアム」を組織して、女子中高生を対象として、近隣の教育委員会、企業、NPOと連携し、大学で実験講座や交流会を開催しています。

C日程　開会式講演「わたしの進路選択」

日時	2019年10月27日(日)
会場	大阪府立大学中百舌鳥キャンパス A12棟サイエンスホール
担当	大阪府立大学関西科学塾運営事務局
講演	(工)坂野

C日程　実験・実習講座「コンピュータシュミレーションを体験しよう」

日時	2019年10月27日(日)
会場	大阪府立大学中百舌鳥キャンパスA13棟
担当	森澤和子教授（工学研究科）
参加者	中学生14名、同伴者13名
IRIS	(工)新堂、(工)森田、(工)木田

> 当日は、簡単な数学を使ったおすすめ商品の算出に加え、プログラミングによるおすすめ商品の表示をしました。そのような盛り沢山の内容にも、集中力を切らすことなく楽しんでもらえ、嬉しく思いました。数学は難しいうえに何の役に立つのか分かりづらく、苦手意識を持つ人が多い教科だと思います。今回の企画に参加したことで、中学生が今学んでいる数学が身の回りの便利なサービス作りにつながっていることを実感し、少しでも数学の勉強を楽しいと思ってもらえたら幸いです。(工)木田

堺市学校理科展覧会科学実験ブース「体感！エネルギーの世界」

日時	2019年9月15日(日)
会場	堺市教育文化センター（ソフィア・堺）
主催	堺市教育委員会他
参加者	299名
当日スタッフ	府大教員5名、府大職員1名、 関西科学塾OG 1名、IRIS 6名
IRIS	(工)新堂、(工)柳、(工)吉田、(生)勝沼、(生)山口、(生)平田

「未来の博士」育成ラボ・女子中高生のための関西科学塾

堺市中学校理科スキルアップ研修「電気の基礎―実験器具をつかいこなす」TAとミニ講座「女子中高生の理系進路選択について」での講演

日時	2019年8月7日(水)
会場	大阪府立大学中百舌鳥キャンパスA14棟
主催	堺市教育センター
参加者	中学理科教員6名
スタッフ	堺市教育センター2名、府大教員2名 府大職員2名　IRIS：(工)井上、(生)飯高

ノートルダム清心学園

科学実験キャリア教育プログラム
清心女子高等学校生徒と理系女子大生・大学院生との交流会

日時	2019年8月21日(水)・22日(木)
会場	大阪府立大学りんくうキャンパス
主催	ノートルダム清心学園清心女子高等学校
担当	田島朋子准教授（生命環境科学研究科）
参加者	女子高生19名
TA	獣医学類5年：2名、 IRIS：(生)飯高、(生)佐々木、(生)山口、(理)平野

「集まれ！理系女子」女子生徒による科学研究発表交流会―全国大会―

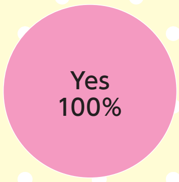
日時	2019年10月27日(日)
会場	早稲田大学西早稲田キャンパス
主催	ノートルダム清心学園 清心中学校・清心女子高等学校
協力校	学校法人文京学園文京学院大学女子高等学校
後援	岡山県、岡山県教育委員会、東京都教育委員会、早稲田大学理工学術院
担当	田島朋子准教授（生命環境科学研究科）
参加	130題(中学・高校)、12題(大学・企業)
IRIS	(工)小川、(工)乙山、(工)矢野、(工)西尾、(工)中西、 (生)野口、(生)山口

「集まれ！理系女子」女子生徒による科学研究発表会―関西大会―

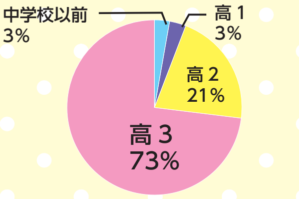
日時	2019年12月14日(土)
会場	奈良女子大学　記念館
主催	奈良女子大学理系女性教育開発共同機構・附属中等教育学校
共催	ノートルダム清心学園 清心中学校・清心女子高等学校
後援	三重県教育委員会、滋賀県教育委員会、兵庫県教育委員会、和歌山県教育委員会、京都府教育委員会、奈良県教育委員会、奈良市教育委員会
担当	田島朋子准教授（生命環境科学研究科）
参加者数	中高生140名、教員他70名
IRIS	(工)前川、(工)津屋、(工)木田、(工)小林、(工)柳

教えてＩＲＩＳ！

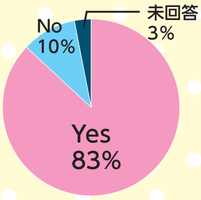
Q1. 今の自分の研究にやりがいを感じていますか？



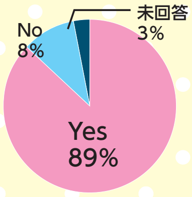
Q2. 今の学科に決めたのはいつ頃ですか？



Q3. 部活・サークルに所属していましたか？



Q4. もう 1 年あるとすれば、また活動に参加したいと思いますか？



乙山 美紗恵

博士後期課程3年

所属：工学研究科物質・化学系専攻
応用化学分野

【研究内容】可燃性の有機電解液を難燃性の無機固体電解質に置き換えた、「全固体電池」という全て固体材料から構成される次世代型のリチウムイオン電池を研究しています。全固体電池は液漏れや発火などの恐れがなく、現行のリチウムイオン電池よりも高いエネルギーを取り出せるとして、電気自動車等の大型電源への応用が期待されています。高性能な全固体リチウム電池の開発に向けて、私は特に電池内の反応解析を行っています。

Q. 今の自分の研究にやりがいを感じていますか？

A. とてもやりがいを感じています。博士後期課程に進学したのも、研究が面白いと思ったからです。全固体リチウム電池の実現に向けては、解決すべき課題がいくつか残っています。その中でも最大の課題である固体接触界面に関して、反応解析というアプローチから課題解決に取り組んでいます。その成果もあり、電池研究への貢献が期待される研究者に贈られる電池技術委員会賞を、学生のうちに受賞することができました。2019年に吉野彰先生がノーベル化学賞を受賞されたことから、リチウムイオン電池が無ければ現在のような便利な生活は成り立たなかったと言っても過言ではありません。全固体リチウム電池が実現すれば、未来をより良いものに変えることができると信じています。大学卒業後も研究所で電池研究を続ける予定で、世界的に有名な女性研究者になるのが夢です。

【趣味】趣味は海外旅行です。アジアを中心に旅行していましたが、フランスに留学しているあいだにヨーロッパもたくさん旅行しました。いつかアフリカにも行きたいです。アイドルのライブに行くことも好きで、元気をチャージしています。

平野 まみ

博士前期課程2年

所属：理学系研究科　生物科学専攻
細胞機能制御化学

【研究内容】生体の細胞が放出する微小カプセル、「エクソソーム」を用いて、例えばがんなどの疾患部位にピンポイントで薬物を運ぶ「ドラッグデリバリーシステム:DDS」の技術開発に取り組んでいます。細胞由来のエクソソームは、人工的に合成したカプセルと比較して毒性が低く、薬学的な優位性から、次世代の薬物運搬体として注目されています。そこで、治療に効果のあるエクソソームを放出する細胞に注目し、放出されたエクソソームが周辺の細胞（特にがん細胞）に与える影響について研究しています。

Q. 今の進路（学科）に決めたきっかけを教えてください！

A. 幼少から、植物や昆虫など身近な生き物に興味を持っていました。
中学生の時、「なぜサトイモの葉は水を水滴状に弾くのか？」と疑問に思い、自由研究の題材にしました。調べた結果、表面に特有の微細構造を有しており、さらに葉上で水滴を転がすことで汚れや虫を落とし、光合成能向上や病害予防に役立っていることも分かりました。
また、高校生時代には社会問題の中でも「食糧危機」にアンテナが向いていました。そこで自分が学びたい学系は農学か理学だという方向性が見えてきました。社会問題の根本的な解決には「なぜ？」を深掘りする必要があると考え、自然の原理を追求する学問である理学を専攻することを決めました。

【趣味】ベランダ菜園です。プランターで野菜を栽培しています。今年、「どっかんピーマン」を育てたところ、枝がしなるほどの巨大なピーマンをいくつも収穫。肉詰めにしたら、肉が2倍増しのボリュームある一品になりました！ワクワク、ワナワナ、ホクホク。自分で育てる醍醐味です。

平尾 菜有

博士前期課程1年

所属：人間社会システム科学研究科
現代システム科学専攻　環境システム学分野

【研究内容】鉄道駅の高架化による景観変化の地域への影響について研究しています。交通渋滞等の問題から踏切箇所をなくし路線を高架化する事業があり、これは地域住民の利便性を考えるにあたって適切な開発だと考えます。しかし、この高架化によって広範囲にわたる路線、地域の顔ともなりえる鉄道駅周辺が個性のない画一的な風景になっていること、高架によって地域が分断されていることが課題となっています。そのため、私は鉄道の高架化による地域への影響について調査し、鉄道高架化のより良いあり方について明らかにしたいと考えています。

Q. 部活・サークルに所属していましたか？

A. 学部生の時に料理サークルに所属していました。活動では季節に合ったメニュー等をメンバーで料理して食べたり、学園祭の時期は出店の用意などを行いました。月1回ほどの活動でしたが、実家通いで自主的に料理することがあまりなかったので生活の中の良い刺激になりました。また、ゆるい関係で友達ができたりするので私にとって居心地が良かったです。大学で部活・サークルに入ることは絶対ではないけれど少しでも気になっているのなら入ってみたら良いと思います。高校や中学のような強いコミュニティがある部活だけでなく様々な団体があるので学内・学外ともに視野を向け、様々な人に出会って自分に適したコミュニティを見つけ友人を作るのは大学生活を充実させるきっかけになると思います。

【趣味】旅行と、友人と料理会を開くことにはまっています。現在ドイツに留学していることもあり、たまに旅行に行って楽しんでいます。最近は、オーストリアでスキーをしました。また寮生活をしていることもあって友人たちと料理会をすることも楽しみの1つです。

佐々木 里那

博士前期課程1年

所属：生命環境科学研究科　応用生命科学専攻
応用生命科学分野

【研究内容】私は骨格筋の肥大について研究しています。骨格筋量の減少は運動機能障害や代謝疾患のリスクが高くなることから、日常の食事において骨格筋量の維持・増加に寄与する食品成分を摂取することは、これらの疾患を予防、改善するために重要です。大豆に含まれる大豆イソフラボンの一種であるダイゼインとその代謝物であるS-エクオールに注目し、それらの成分が筋肥大にどのような仕組みで関与しているのかを解明することを目的としています。

Q. もう1年あれば、また IRIS の活動に参加したいと思いますか？

A. 私は来年度も IRIS の活動に参加したいと思っています。私は IRIS で小学生向けの科学実験教室の開催や、高校生の科学実験プログラムのアシスタントを通して、小学生や高校生に科学の楽しさを伝えながら、私自身も初心にかえることができ、改めて科学の面白さに気付く事が出来ました。科学実験教室の準備や IRIS カフェなど、様々な IRIS の活動を通して異分野の方とも交流できて、自分の視野が広がり、成長できたのではないかなと感じています。また企業研修ではダイバーシティについて学び、女性の活躍や LGBTQ に対する企業の取り組みを知り、私も将来その取り組みに参加し、誰でも研究者として活躍できる世界を作りたいと思うきっかけを与えて頂きました。IRIS の活動からこのような貴重な経験をすることができ、新たに自分のやりたい事も発見できたので本当に良かったと思っています。

【趣味】私の趣味はテニスです。高校生の頃からテニスを始め大好きになり、大学生活ではテニスサークルに所属し、テニススクールでアルバイトもしています。テニスをすることも見ることも好きで研究生活の息抜きになっています。

女性研究者支援センター長
森澤　和子 教授
（工学研究科）

科学への夢を育て、未来へはばたく IRIS

大阪府立大学理系女子大学院生チーム IRIS（アイリス）は、本学の女性研究者支援事業における 3 つの柱の一つである「研究者育成」のための取組として 2011 年に発足しました。2019 年度は、理系のさまざまな分野で学ぶ 38 名が、年間 10 件のサイエンス・キャンパスの実施、本学オープンキャンパスでの理系女子コーナーの開催、日経ウーマノミクスフォーラムで座談会のファシリテーターを務めるなど、科学の楽しさ・面白さを社会に伝える活動に非常に意欲的にチャレンジしてくれました。このような活動の場を提供してくださった皆様、ご支援ご協力をいただいた皆様に心より御礼申し上げます。
活動を通して培った経験を糧として、IRIS のメンバーたちがそれぞれの未来に向けて力強くはばたいてくれると確信しています。

IRISへのメッセージ

学長から

2011 年にスタートした IRIS も、来年は 10 周年を迎えます。これまでにのべ 284 名の理系女子大学院生が、IRIS として活動してきました。
IRIS はサイエンス・キャンパスやオープンキャンパスなどで、地域の小中高校生や保護者と交流しています。IRIS が、小中高校生の身近な理系女性ロールモデルとなるのはもちろん、IRIS 自身にとっても、コミュニケーション力や企画力、創造力などを養う貴重な機会となっています。このような場を与えてくださったみなさまに、厚くお礼申し上げます。
大阪府立大学は、これからも IRIS の活動を支えていきます。今後とも、みなさまの温かいご支援をよろしくお願いします。

辰巳砂 昌弘

IRIS 指導教員から

私どもの研究室は 21 名の学生のうち 8 名が女子学生で、男子学生を超えるバイタリティで研究活動に励んでいます。4 回生で学会発表を経験する学域女子学生や、研究発表で賞を受賞する女子大学院生、採択率の低い国際会議での発表権を勝ち取ってくる女子大学院生など、将来が楽しみな女子学生が多数います。IRIS の活動を一つのきっかけとして、府大女子の高いアクティビティを社会に認知してもらえるよう頑張ってください。

工学研究科　教授　**久本 秀明**

府大での IRIS は I'm a Researcher In Science. ですが、ギリシャ神話での IRIS は天と地を結ぶ虹の女神のことだそうです。世の中には異分野融合や共同研究、国際交流といった人と人との結びつきがあって初めて生み出されるものがあります。そのような結びつきを意識した IRIS として社会で活躍してくれることを期待しています。

生命環境科学研究科　教授　**山地 亮一**

20 年ほど前、ヨーロッパで働いていたときの同僚の半数は女性でしたが、大阪府立大に就職すると、そのほとんどが男性になりました。街路から銭湯（男湯）に入ったような気分になったことを覚えています。男女の格差や社会進出の国際統計では、日本は下位常連ですが、IRIS のような活動を通して少しずつ変わっていくことを期待しています。少子高齢化ではヨーロッパのはるか先を走っている日本ですから。

理学系研究科　准教授　**川西 優喜**

海外からの女子留学生にとっても、IRIS の活動内容は大変興味深く、また意義深いものであることは間違いなく、積極的に取り組みを行っています。しかし、様々ある活動の中で、少数しかいない留学生としての困難を感じることもあるようです。そんな時にも教育の場として、細やかに個別の能力を発揮できる環境を整えていただけていることに感謝しています。今後は女子留学生の増加と Global な取り組みを期待したいと思います。

人間社会システム科学研究科　教授　**真嶋 由貴恵**

事業協力機関から

先日は弊社の企業研修にご参集くださり、誠に有難うございました。
長時間に及ぶ研修（講演・グループディスカッション）にも関わらず、最後まで熱心に討議される貴学生たちの様子を拝見し、非常に感銘を受けました。
IRIS の皆様が今回の研修を通し、女性研究者が社会で活躍する具体的なイメージが描け、卒業後ご活躍されることを心より願っております。
更には、今回の研修を通じて弊社に少しでも興味を持って頂ければ幸いでございます。

三洋化成工業株式会社　ダイバーシティ推進部　**山﨑 有香**　部長

サイエンス・キャンパスでは、子どもたちが目をキラキラさせながら楽しんでいたのが印象的でした。実験の理論は小学生には少し難しいのではないかと思いましたが、IRIS の皆さんが一生懸命噛み砕いて説明されていて、科学の楽しさや奥深さも体験できたのではないかと思います。親子講座として実施しましたが、女性研究者が活躍している場面を実際に見て、「女性は理数科目が苦手だ」というような偏見が少しでも払しょくできていれば嬉しいなと思います。

富田林市　人権政策課　**男女共同参画係**

IRIS - OG から

IRIS 創立時から参加し、4 期生まで務めました。主にサイエンス・キャンパスやオープンキャンパスでの活動を行っていました。私が在籍していた頃よりもさらに活動の幅を広げ、ご活躍されているようで誇らしく思います。
現在、私は京都大学 iPS 細胞研究所にてパーキンソン病治療のための細胞製造に係る仕事をしています。IRIS の活動でもそうでしたが、興味と好奇心を原動力にして日々楽しみながら、医療の進歩に携わるべく尽力しています。

京都大学 iPS 細胞研究所　**尾崎 由季（IRIS第1期生〜4期生）**

IRIS リーダーから

私にとって IRIS は本当に多くのことを学べる場でした。8 期生で初めて参加した時はうまくいかないことも多く、試行錯誤の繰り返しでした。その中で伝えるという事を深く考えるようになりました。また、活動する中で様々な方との交流があり、自分の科学との向き合い方や将来したいことを改めて考えるきっかけになりました。
本年度は、IRIS 9 期生のリーダーを務めさせていただきました。決まった役割はないので、積極的に活動に参加しようと決めました。活動から得られた学びを次の活動で他のメンバーに伝えるよう意識し、IRIS 全体の学びやスキル向上に貢献することを目指しました。私の大きな夢は、IRIS が次の世代に科学の魅力を伝え、そこからさらに、と続いていくことで、科学全体の発展という壮大な物語の一部になることです。そのために、これからも IRIS が目の前にあることに全力で取り組めるチームであればいいなと願っています。

IRIS 第 9 期生　**吉田 春香**

編集後記

活動報告集の編集を通して、IRIS 一人ひとりが様々なことを考えて活動に挑んでおり、イベントによって色々な個性が出ているように感じました。そして、イベントの特徴や IRIS の思いが沢山伝わる報告集を作ることができるよう心がけました。この報告集で IRIS の一面や活動を知っていただくことができれば幸いです。（森田 喜恵）

IRIS 活動報告書Ⅸの発行にあたり、ご協力いただいた皆様にお礼申し上げます。今年度は IRIS メンバーが「サイエンス・キャンパス」をどう企画し、実施しているのかということを知って欲しいと考え、「サイエンス・キャンパスの舞台裏」というコーナーを作りました。この活動報告書を通して、IRIS 一人ひとりの輝きをお伝えできれば幸いです。（勝沼 理沙）

大阪府立大学
女性研究者支援プログラム

大阪府立大学
女性研究者支援センター
〒599-8531
堺市中区学園町 1 番 1 号（中百舌鳥キャンパス C4 棟）
TEL・FAX　(072) 254-9856
E-Mail　w-support@ao.osakafu-u.ac.jp
URL　http://genki.osakafu-u.ac.jp/

女性研究者支援センター
ウェブサイト

@IRIS_OPU
大阪府立大学
理系女子大学院生チーム IRIS

IRIS 活動報告集編集委員
吉田 春香　森田 喜恵　勝沼 理沙
発行：2020 年 2 月